第6回
河南町地域公共交通検討会議

◆河南町地域公共交通基本計画（案）の策定

平成27年1月21日　　河南町

第6回　地域公共交通検討会議のねらい

- 地域公共交通検討会議が目指す地域公共交通を報告する
- これまでの地域公共交通検討会議を振り返る
- 住民意見を参考にした「河南町地域公共交通基本計画案」を報告する
- 持続可能な地域公共交通を報告する（評価基準の考え方などの確認）
- 今後のスケジュールについて

↓

河南町地域公共交通基本計画を策定

地域公共交通検討会議が目指す地域公共交通

【地域公共交通を守り育てる意識の醸成（住民が交通をつくり、まちを創る）】

持続可能な地域公共交通とするためには、住民が当事者となり、主体的かつ積極的に関与していくとともに、運行事業者や行政と連携し、一体的に取り組んでいく必要がある。

【実証運行結果により利用者の確保が見込めず事業が成立しないと判断した場合は継続しない（廃止）】

地域公共交通は、採算が取れるというのが理想であり、実証運行の結果（収支率、利用者数、利用者ニーズなど）を踏まえ、公共サービスと公費負担のバランスを考慮しながら、本格運行を判断すべきである（事業の評価と継続・見直し・廃止）

【地域公共交通を支えるために住民に求められる意識や行動】

1．知る　……地域公共交通を利用してもらうための動機づくり

2．乗る　……住民のニーズに応じた地域公共交通を利用する（まずは乗ってみる）

3．考える……地域公共交通を守り育てる意識の醸成（一度乗車しただけでは次の利用につながらない）

4．続ける……乗り続けないと地域公共交通が存続できなくなることを認識（自主的な利用を促し習慣化を図る）

河南町地域公共交通基本計画案の流れ

「河南町地域公共交通基本計画案」は、河南町地域公共交通検討会議の議論などを踏まえて、住民の意見を反映して検討した。

1　河南町地域公共交通基本計画素案

①課題抽出
②公共交通施策の方向性
③公共交通施策の検討
④地域公共交通基本計画素案

2　河南町地域公共交通基本計画素案の課題

●住民に公共交通の必要性が十分浸透していない
●自分たちの交通を考えるという意識につながっておらず、意識を変えていかないといけない
●このままでは地域に応じた持続可能な交通システムの構築は難しい

など

3　河南町地域公共交通基本計画案

検討会議

第1回　平成25年7月26日
第2回　平成25年10月23日
第3回　平成26年1月16日
第4回　平成26年3月19日
第5回　平成26年7月2日

住民報告会

平成26年5月18日

住民アンケート調査

■実施期間　平成26年5月
■回答数　2,870人
（回答率20%）

住民意見交換会

平成26年10月

Ⅰ．これまでの振り返り

河南町の地域公共交通の意識

丘陵部での住宅地（大宝区域、さくら坂・鈴美台区域）及び集落地の町域全体において、クルマを主とする交通手段に依存した意識が根底にある

河南町の生き残りと活性化を図るためには「河南町独自の地域公共交通システム」が不可欠

河南町地域公共交通基本計画で目指すべき方向

- マイカーに依存した状況からの脱却
- 身近で手軽な移動手段であるバス交通のあり方を見直す
- 住民にとって利用しやすく、また同時に地域住民で育てていく意識の醸成
- 乗継円滑化やバスネットワークの強化などによる利便性向上
- 河南町が目指すまちづくりに関する計画との整合性を図り、地域の活性化及び住民福祉の向上に寄与

Ⅰ―1　計画概念図

区域ニーズに応じたきめ細かい公共交通サービスを提供することで、住民の生活活動を支援し、持続可能なまちづくりを目指します

基本方針

①大阪都市圏の郊外における公共交通の平均的サービス水準を確保する

②区域特性に応じた最適な公共交通サービスを、住民、企業、交通事業者、行政などの協働・連携のもとに実現する

③住民などが主体となり、地域公共交通を維持する

住民ニーズに合致したサービスの充実と運行の効率化

住民のモビリティの持続的な確保

バス路線の位置づけ

―駅直通の路線―（幹線系路線）

利用が多く、まちづくりの上で主軸となる路線

―町内循環路線―（支線系路線）

利用が比較的見込まれ、まちづくりの上で必要な路線（買い物など）

―デマンド型路線―

利用者が一部の区域、もしくは一部の住民に限られる路線やエリア

目標	河南町の都市の軸にふさわしいサービスを維持・強化	住民生活に不可欠なモビリティを確保	住民ニーズを踏まえて、運営・運行形態を再構築し、最低限のモビリティを確保
主な施策	路線バスを改善・強化するための取り組み	やまなみバスを再編するための取り組み	デマンド型路線を実現するための取り組み
	効率的なバス交通システムを構築するための取り組み（交通結節点・乗継拠点の整備）		

■既存の路線バスの利用促進につながるような取り組みが必要（交通事業者のみでは対応に限界）

■地域公共交通を支えるには、やまなみバスの再編と適正な利用者負担が必要（社会全体で支える仕組みの構築）

Ⅰ―2　河南町地域公共交通基本計画素案

主な施策

1．路線バスを改善・強化するための取り組み
2．やまなみバスを再編するための取り組み
3．デマンド型路線を実現するための取り組み
4．効率的なバス交通システムを構築するための取り組み（交通結節点・乗継拠点の整備）

1．路線バスを改善・強化するための取り組み

（住民）地域公共交通に対する意識（「みんなで育てる地域公共交通」）の向上策の検討　など
（行政）路線バスマップや時刻表の作成　など

2．やまなみバスを再編するための取り組み

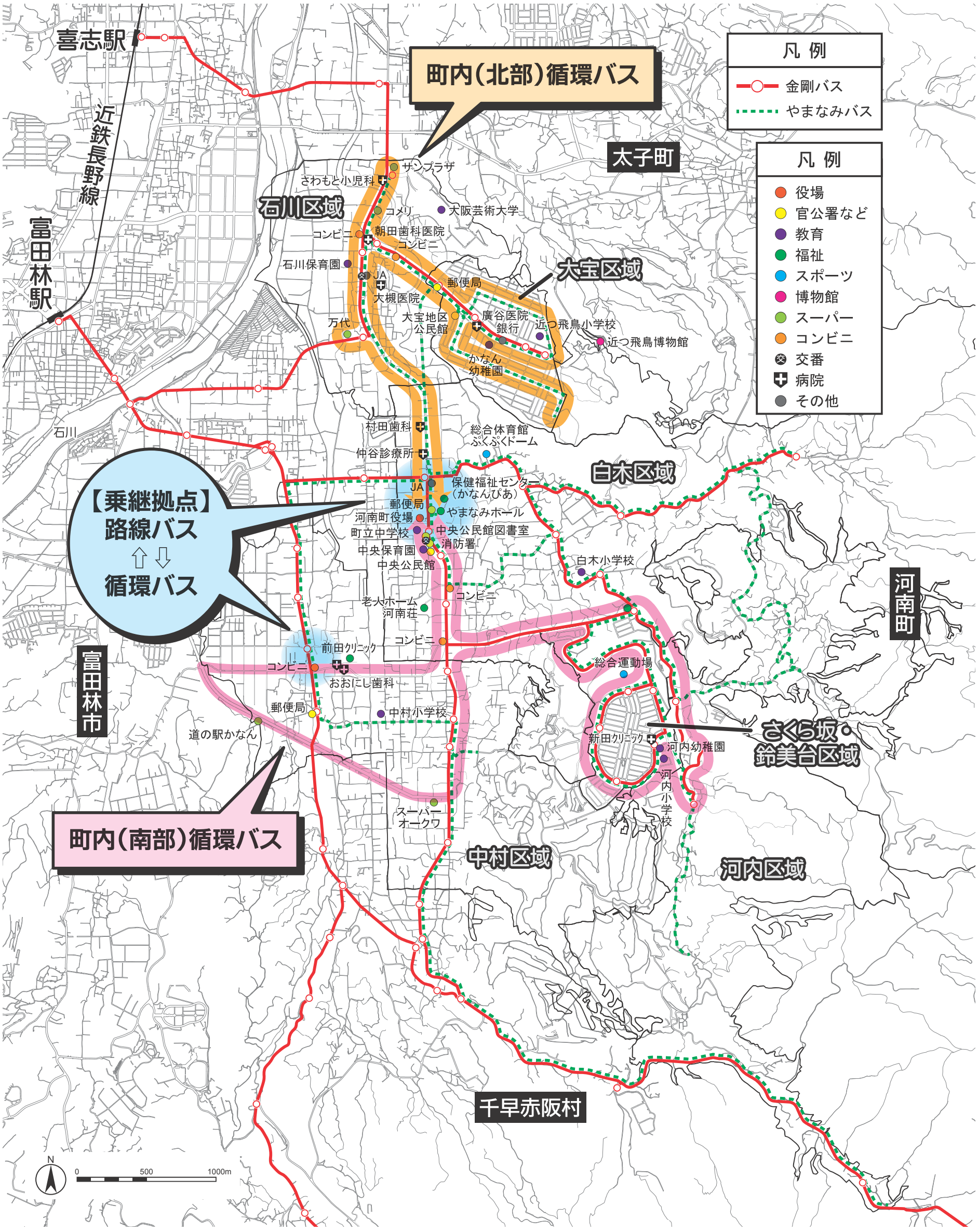
・循環バス運行（実証運行）に向けた検討（ルートなど）　など

3．デマンド型路線を実現するための取り組み

・区域の現状・特性に応じた最適な交通システムの検討　など

4．効率的なバス交通システムを構築するための取り組み（交通結節点・乗継拠点の整備）

・乗継拠点のあり方検討　など



河南町地域公共交通基本計画素案

Ⅱ．地域公共交通基本計画素案に対する住民意見の聴取

■第５回検討会議では、地域公共交通基本計画素案については、住民意識・参加意欲の向上が最も重要な課題とされた。

■これらの意見を受け、みんなで育てる地域公共交通を目指すため、今後一層住民の声を聞くことが重要となり、地域公共交通はなぜ必要なのか、その理念や考え方、方向を周知・浸透させるとともに、住民の意見を十分聞いた上で、計画の具体化を目指すこととなった。

■そこで、地区の代表である区長や役員などとの意見交換会を地域毎に実施した。

【意見交換会の主な意見】

石川区域

・地域のニーズにあったバスを走らせるべき
・路線バスが通っていない山手地域こそなんとかしなければいけない　など

白木・河内区域

・本当に困っているのは路線バスが通っていない山手地域
・山手地域の高齢者はすでに交通弱者となっており、4～5年後という問題ではなく、待てない　など

さくら坂区域

・住民の流出を防ぐためには、公共交通を充実させ利便性を向上させるべき
・金剛バスではオークワと万代へ行くことができない
・住民に対してどう伝えていくかが重要　など

中村区域

・役場に行くのにさくら坂を通って行かないといけない。これではやまなみバスと何も変わらない。この公共交通にはメインがなく、誰も乗らない。買物バスを特徴にしてはどうか　など

大宝区域

・交通問題について意見を集約し、盛り上げていきたい
・循環バスが走るようになれば、乗っていこうという声は上がっている
・買い物を主とした路線が必要ではないか
・とにかく一歩を踏み出さないと行けない。北部循環ルートの試行運行を実施し、評価・改善のステップで進めて欲しい
・早く試行運行し、評価し、目標に届かなければ廃止になるという流れになることを周知しないといけない
・循環バスサービス区域外の対応を考えないといけない
・全域デマンドはコストなどを考えると難しい　など

1. 素案見直しにあたっての方向性（見直しのポイント）

主な指摘事項

【石川区域】

・地域のニーズにあったバスを走らせるべき
・山手地域にも地域公共交通が必要

【白木・河内区域】

・山手地域も便数が少なくても良いからバスが必要

【さくら坂区域】

・買い物目的で利用ができる公共交通が必要

【中村区域】

・役場等に行くのにさくら坂を通らないと行けないのは不便
・商業施設との協力体制を図るべき

【大宝区域】

・買い物を主体とした路線が必要
・循環バスサービス区域外の対応を考えるべき

見直しの方向性

商業施設へのアクセス強化
（北部と南部に立地するスーパーや店舗など）

需要やニーズに応じた循環バスの見直し
（南部をさくら坂・鈴美台区域と中村区域に分割など）

山手地域における交通手段の確保

商業施設へのバス停設置協力や協賛金の要請

2. 河南町地域公共交通基本計画素案の見直し方針

方針 実証運行によって「継続・見直し・廃止」を前提とした計画案を作成する

河南町地域公共交通基本計画素案	河南町地域公共交通基本計画案
町内循環路線	**町内循環路線**
【北部循環バス】 ・大宝区域周辺とスーパー、店舗、病院、公共施設などを循環する路線	【北部循環バス】 素案どおり （ただし、商業施設へのアクセス強化を図った）
【南部循環バス】 ・さくら坂・鈴美台区域、中村区域周辺とスーパー、店舗、病院、公共施設などを循環する路線	【南部循環バス】 南部循環バス路線を分割 （商業施設へのアクセス強化を図り、さくら坂・鈴美台区域、中村区域に分割し速達性を確保した）
デマンド型路線	**デマンド型路線**
・北部・南部循環バスでカバーできない区域への対応	デマンド型路線の検討 （平石、持尾、弘川、下河内、上河内、青崩などへの対応）

3. 河南町の地域公共交通体系

●河南町の地域公共交通体系は、住宅の立地状況や需要、目的などに応じた適切なサービスを提供する。

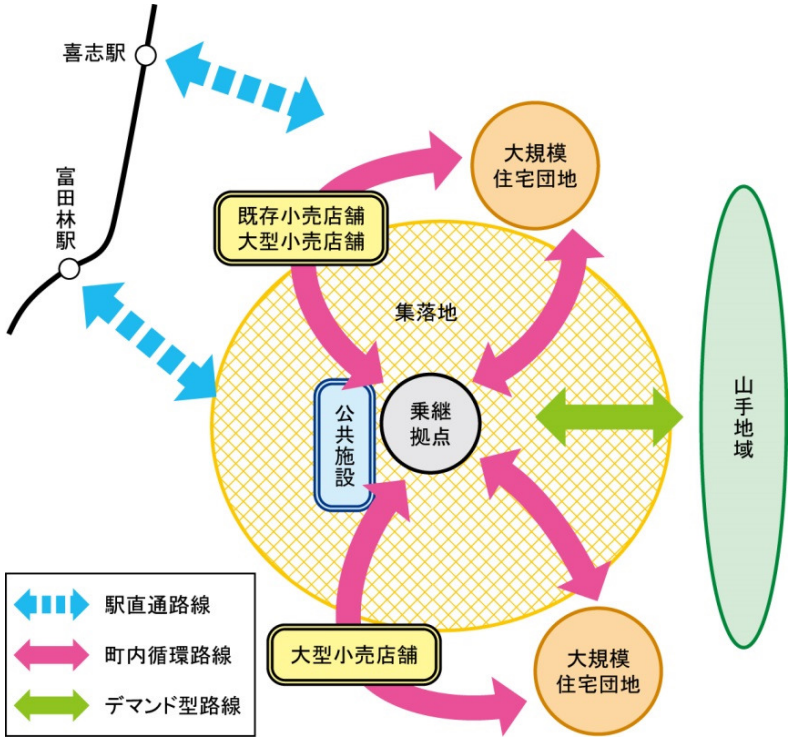
・各区域と鉄道駅を結ぶ「駅直通路線（路線バス）」

・大規模住宅団地や集落地などと町内の商業施設や病院、公共施設などを移動する「町内循環路線（町内循環バス）」

●「町内循環路線（町内循環バス）」では対応していくことが困難な区域（山手地域など）へは、福祉・高齢者施策としてのデマンド型交通など総合的な施策展開により対応していくことが必要となる。

★大規模住宅団地などまとまった需要のある区域では「町内循環バス」が適している

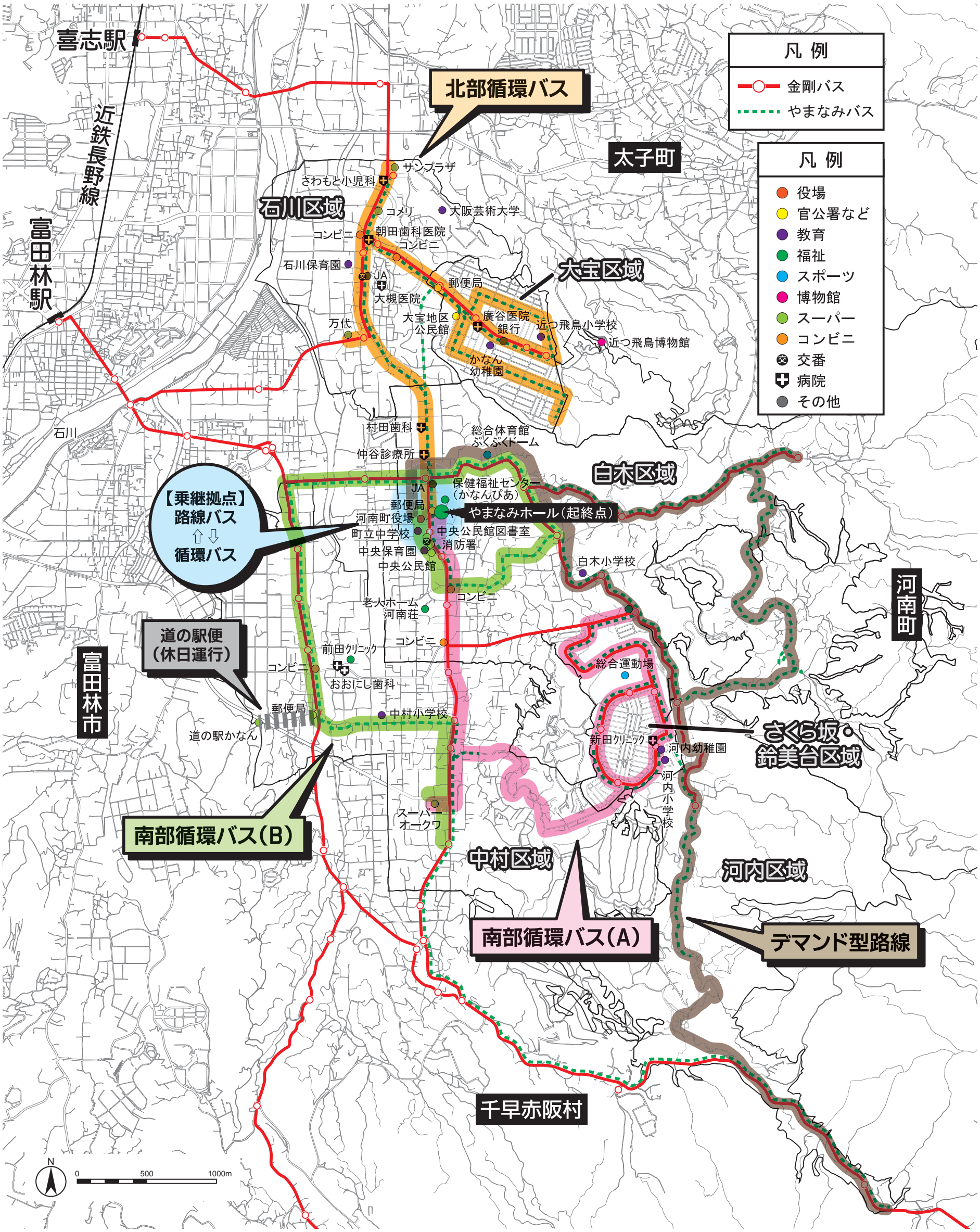
★町内全域を対象とする「デマンド型交通」は、住宅の立地状況などから適さない



【河南町地域公共交通体系】

■「にぎわいのあるまちづくり」に貢献する地域公共交通

■高齢者や若者が「住み続けられる、暮らしやすいまちづくり」に貢献する地域公共交通



河南町地域公共交通基本計画案

北部循環バス（運行イメージ）

①地域特性

・人口が多い住宅地。高齢化の進行

②運行イメージ

・昼間（買い物、通院などの昼間の時間帯）の移動を担う「北部循環バス」により、町内の主要拠点への移動が便利になる

・乗り継ぎ拠点により南部方面の移動や路線バスが使いやすくなる。

運行概要（案）	運行ルート	運行地	石川区域及び大宝区域
		目的地	スーパー、店舗、病院、公共施設など
	運行延長・所要時間		約13.5km、約37分
	運行日		毎日（年末年始を除く）
	運行時間帯		8:00～19:00
	運行便数		11便（決まった時刻に決まった経路を運行する）
	運行車両		1台（小型バス：29人）
	運賃		100円/回

運行収支（推計）

運行ルートの収支の概略を把握するために、利用者数、料金等を想定し、運行ルートの収支を試算した。

①試算条件

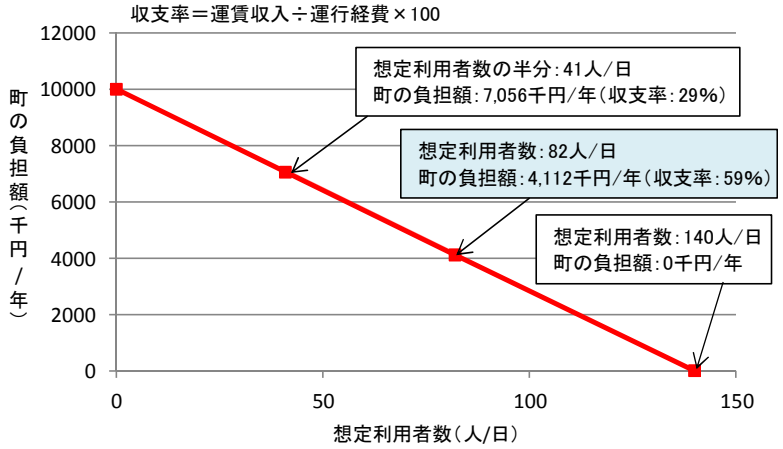
利用者数（潜在需要）は、アンケート結果をもとに想定（買い物、病院、公共施設：82人/日）

必要経費の内訳は、車両の借り上げ費用（運転手人件費＋車両費：10,000千円/年）

運賃は試算上の仮定であり、実際の料金は、法定会議である「地域公共交通会議」で検討

②試算結果（概算）

上記条件に基づき運行収支を試算し、以下の結果が得られた。



今回の試算は、大まかな運行収支の傾向を把握するため仮定に基づいて算定したものである。
今後は実証運行を通して運行収支を検証し、運行実施の可否を検討する必要がある。

南部循環バス（A）（運行イメージ）

①地域特性

・人口が多い住宅地。路線バスの希薄地

②運行イメージ

・昼間（買い物、通院などの昼間の時間帯）の移動を担う「南部循環バス」により、町内の主要拠点への移動が便利になる

・乗り継ぎ拠点により、北部方面の移動や路線バスが使いやすくなる。

運行概要（案）	運行ルート	運行地	さくら坂・鈴美台区域及び中村区域
		目的地	スーパー、店舗、病院、公共施設など
	運行延長・所要時間		約14.5km、約40分
	運行日		火・木・土曜日（年末年始を除く）
	運行時間帯		8:00～19:00
	運行便数		11便（決まった時刻に決まった経路を運行する）
	運行車両		1台（小型バス：29人）
	運賃		100円/回

運行収支（推計）

運行ルートの収支の概略を把握するために、利用者数、料金等を想定し、運行ルートの収支を試算した。

①試算条件

利用者数（潜在需要）は、アンケート結果をもとに想定（買い物、病院、公共施設：36人/日）

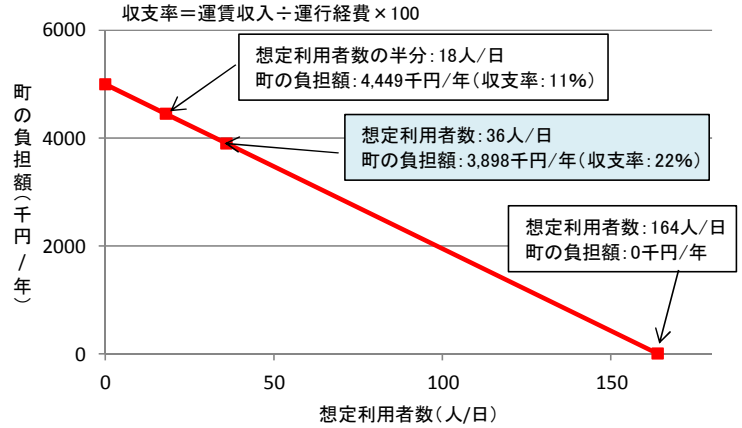
必要経費の内訳は、車両の借り上げ費用（運転手人件費＋車両費：5,000千円/年）

（車両は南部循環バス（A）と南部循環バス（B）を1台で運行するため費用を半額にしている）

運賃は試算上の仮定であり、実際の料金は、法定会議である「地域公共交通会議」で検討

②試算結果（概算）

上記条件に基づき運行収支を試算し、以下の結果が得られた。



今回の試算は、大まかな運行収支の傾向を把握するため仮定に基づいて算定したものである。
今後は実証運行を通して運行収支を検証し、運行実施の可否を検討する必要がある。

南部循環バス（B）（運行イメージ）

①地域特性

・居住地が広範に分布。

②運行イメージ

・昼間（買い物、通院などの昼間の時間帯）の移動を担う「南部循環バス」により、町内の主要拠点への移動が便利になる

・乗り継ぎ拠点により、北部方面の移動や路線バスが使いやすくなる。

運行概要（案）		
運行ルート	運行地	白木区域及び中村区域
	目的地	スーパー、店舗、病院、公共施設など
運行延長・所要時間		約14.6km　約40分
運行日		月・水・金曜日（年末年始を除く）
運行時間帯		8:00～19:00
運行便数		11便（決まった時刻に決まった経路を運行する）
運行車両		1台（小型バス：29人）
運賃		100円/回

運行収支（推計）

運行ルートの収支の概略を把握するために、利用者数、料金等を想定し、運行ルートの収支を試算した。

①試算条件

利用者数（潜在需要）は、アンケート結果をもとに想定（買い物、病院、公共施設：35人/日）

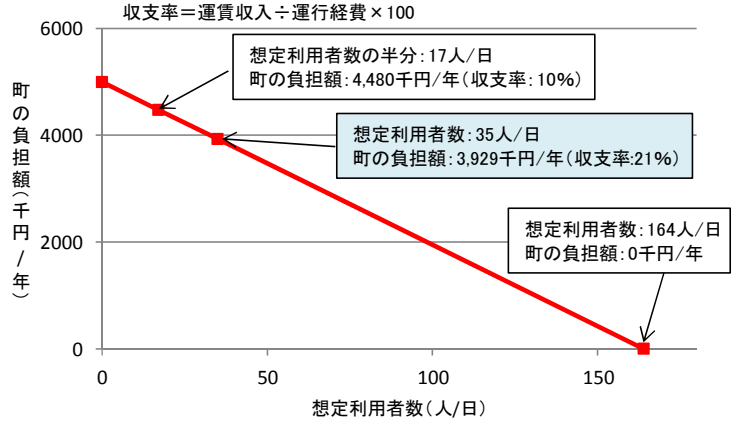
必要経費の内訳は、車両の借り上げ費用（運転手人件費＋車両費：5,000千円/年）

（車両は南部循環バス（A）と南部循環バス（B）を1台で運行するため費用を半額にしている）

運賃は試算上の仮定であり、実際の料金は、法定会議である「地域公共交通会議」で検討

②試算結果（概算）

上記条件に基づき運行収支を試算し、以下の結果が得られた。



今回の試算は、大まかな運行収支の傾向を把握するため仮定に基づいて算定したものである。
今後は実証運行を通して運行収支を検証し、運行実施の可否を検討する必要がある。

Ⅳ．持続可能な地域公共交通の確立に向けて

【評価の目的と手段（PDCAサイクルによる検証）】

評価基準を設け、見直し（廃止を含めた）を検討し、実証運行後の地域公共交通を検討する。
評価にあたっては、客観的な判断ができるよう定量的な基準による評価を行い、その他の定性的な項目も用いて検討する

【実証運行での課題と改善策】

課題	改善策
・乗客数	・多くの住民が利用する効率的な運行 ・住民のサポーター制度などの強化
・財政負担	・運行経費の縮減 ・協賛金　など

【課題と改善策に応じた検証項目】

●区域の状況から見て、運行することは妥当か？

●運行方法は妥当か？（運行ルート、運行ダイヤなど）

●財政負担の度合いは妥当は？

【評価の流れ（ＰＤＣＡサイクル）】

①定量的な基準による評価
定量的な基準を満たしているかどうかを検証

②その他の検証項目による評価
①の評価となった要因等を整理

↓

評価の方向性を「継続」「見直し」「廃止」に仕分けする

③実証運行の見直し検討
①、②をもとに、見直しの方策を検討する

↓

（1）地域に必要な交通か？・・・利用状況など
↓
（2）必要ならば、運行方法が需要にあっているか？・・路線、便数、ダイヤなど
↓
（3）適切な利用者負担は？・・・運賃など

④再評価
再評価を行い、運行計画を策定する

定量的評価により見直しの方向性を決定し、その他検証項目により最終的な評価を行う（評価基準などは法定会議である「地域公共交通会議」で検討）。

【評価シート】

	収支率*		利用者数	
定量的評価	●%未満 （廃止検討）	●%以上 （継続・見直し検討）	●人/便未満 （廃止検討）	●人/便以上 （継続・見直し検討）

その他検証項目	各便利用者数	乗継率	利用目的	利用者満足度

検証	必要性、運行方法、利用者負担など

評価	
継続・見直し	運行方法（路線、停留所、時刻、運賃など） 利用促進策（住民主体の更なるPR活動など） 商業施設などとの連携（商品・飲食代の割引、荷物の配送サービスなど）
廃止	

＊収支率：（運賃収入＋その他広告収入・協賛金など）÷運行経費×100

【参考：自治体のコミュニティバスの導入・見直し基準の例】

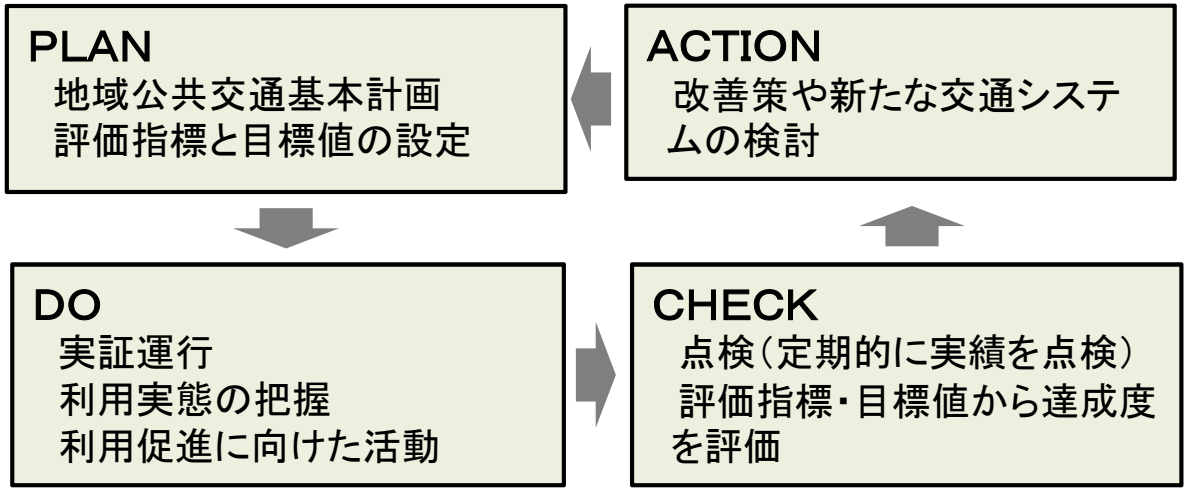
	収支率基準（%）	1便当たりの人数	運賃（円）	その他
箕面市	50	－	210	11人乗
吹田市	30	－	200	15人乗
豊岡市	25	1	100～400 （対距離運賃）	29人乗
相模原市	50	10	180～260 （対距離運賃）	29人乗
市川市	30	－	150	54人乗
平均	37	－	－	－

【ＰＤＣＡサイクルの流れ】

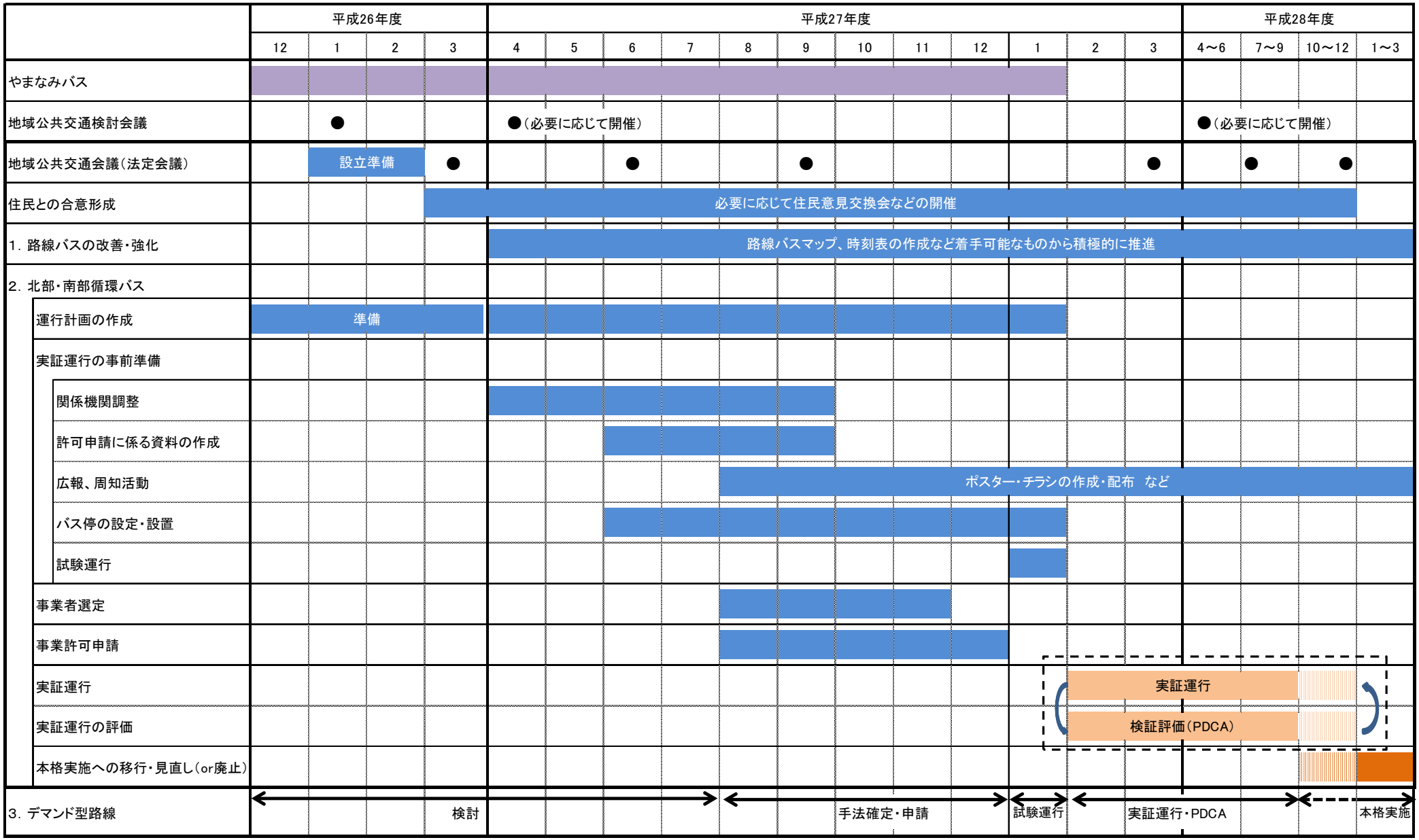
●「計画を策定（Plan）した後、実証運行（Do）、**評価（Check）**、計画の柔軟な見直し（Action）」を行い、継続的で透明性の高い仕組みを構築する。

●なお、**実証運行期間であっても、必要に応じて運行の見直し**を図りながら進めることとし、実証運行終了となる平成27年度においては、効果や目標達成状況等を総合的に評価しながら、28年度以降の**事業方針（継続、見直し、廃止）**を検討する。

●これらの事業推進に当たっては、住民や関係機関などとも連携しながら進めていく。



Ⅴ．今後のスケジュール（案）



Ⅵ. 結論（第6回　河南町地域公共交通検討会議）

- 河南町の地域構造を反映した地域公共交通計画である
- 住民の生活やまちづくりに貢献する地域公共交通計画である
- ＰＤＣＡサイクル（実証運行の検証）は住民と行政が行う
- 実証運行の検証により「継続」や「見直し」を講じ、結果によっては「廃止」もありうる